

令和5年度「一市町村民会議一運動」活動紹介

可児市青少年育成市民会議

『家庭・学校・地域が連携して子どもを育てる取り組み』

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられ行動制限が解除されたことにより、コロナ禍以前に近い活動を実施することができました。

1 青少年育成推進員研修会

令和5年5月27日（土）に、可児市福祉センター大ホールで、青少年育成推進員研修会を開催しました。今年度は市青少年推進員と地区青少年推進員全員を対象に実施することができました。全体会では4地区の専門部会が実践発表を行い、分科会では4つの専門部会がそれぞれの活動について、熱心に協議を行いました。また、当日は青少年育成功労者の表彰も併せて実施しました。



2 少年の主張可児市大会

令和5年6月17日（土）に、可児市文化創造センター主劇場において、少年の主張可児市大会を開催しました。市内の中学校6校から選出された12名の代表者が、日常生活の中で感じている思いや考えを、自分自身の言葉で真摯に力強く主張しました。

審査の結果、「幸せをつかむ手から」という題名で発表した広陵中学校2年 林 優太さんが最優秀賞を受賞しました。4年ぶりのアトラクションとして、西可児中学校吹奏楽部の皆さんが、素晴らしい演奏で会場を大いに盛り上げてくれました。また、当日は善行少年の表彰も併せて実施しました。



3 可児市青少年育成シンポジウム

令和5年11月18日（土）に、可児市文化創造センター主劇場において、可児市青少年育成シンポジウムを開催しました。講師に漫画家 棚園 正一先生を迎え、「学校へ行けない 僕たちの気持ち ～僕たちを支える 地域の力～」という演題でお話いただきました。先生からは、自身が不登校で過ごした経験を話される中、学校へ行きたくない君には、「気持ちに余裕が生まれた時は、外へ出て人との出合いを大切にしてください。」、また、周りの方には、「不登校の子は理想が高いが、理想を離れた時に可能性が広がる。そのために、いろんな選択肢を提示してあげることが大切です。」といったアドバイスをいただきました。

また、当日は「わが家の宝物」作文・標語優秀作品表彰、優秀作文発表、「家庭の日」啓発図画・ポスター県入選者表彰も併せて実施しました。



4 街頭啓発

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」では7月2日（日）に、「秋のこどもまんなか月間」では11月5日（日）に市内大型店舗や、地区センターまつり会場においてMSリーダーズの協力もいただき、啓発グッズの配布など青少年の健全育成の街頭啓発を実施しました。



このほか、「家庭のぬくもり」図画・作文・標語作品展を開催しました。令和6年1月12日（金）から1月24日（水）まで、広見地区センターにおいて、小中学生の作品を展示しました。展示されたのは、「家庭の日」啓発図画・ポスターの市入選作品59点、「わが家の宝物」作文・標語の入選作品61点です。いずれの作品からも、それぞれの家庭の心温まる家族のふれあいが伝わってきました。